



銀座の言語景観 8

日本大学文理学部国文学科
日本語学基礎演習2

- はじめに
- ドラッグストアの言語景観
- 銀座のパンフレットとフロアガイドからみる言語景観
- デパートにおけるトイレの言語景観
- カフェから見る銀座の言語景観
- 銀座のホテルにおける言語景観について
- コンビニエンスストアの言語景観



第6章 銀座のホテルにおける言語景観について

6.4. ホテルインターフォンにおける言語表示 (宮原千里)

6.4.1. 調査結果

表2. ホテルインターフォン使用言語集計結果とホテルの属性

	使用言語	開業年	地区	価格 (円)
ホテルユニゾ銀座7丁目	日・英・中(簡)・韓	2016年	銀座7丁目	8820
ホテルユニゾ銀座1丁目	日・英	2016年	銀座1丁目	13788
相鉄フレッサイン銀座7丁目	日・英・中(簡)・韓	2016年	銀座7丁目	9900
相鉄フレッサイン銀座3丁目	日・英・中(簡)・韓	2017年	銀座3丁目	9900
三井ガーデンホテル銀座プレミア	日・英	2005年	銀座8丁目	20340
ミレニウム三井ガーデンホテル東京	日・英・中(簡)・繁・韓	2014年	銀座5丁目	20000
アバホテル銀座 京橋	-	2013年	京橋3丁目	11500
ホテル銀座ダイエー	-	1979年	銀座3丁目	7500
ホテルサンルート銀座	日・英	2015年	銀座1丁目	11000
ソラリア西鉄ホテル銀座	日・英・中(簡)・韓	2011年	銀座4丁目	15600
ホテルミュッセ銀座	日・英	2018年	銀座7丁目	13500
ダイワロイネットホテル銀座	日・英	2015年	銀座1丁目	15000

表(一)はインターフォンがなかったことを示す
価格は宿泊日を2018年12月25日とする場合

インターフォンを設置しているホテルでは、日本語表記の下に英語表記が必ずあり、中国語簡体字と韓国語はセットになっている場合がほとんどである。中国語繁体字は、1店舗のみの使用で、中国語はどちらか一方のみの表記で済ませているホテルがほとんどであることがわかる。さらに同じグループのホテルでも使用言語に違いがあるホテルもある。

6.4.2. ホテル属性から見た特徴

ホテル価格順にみた特徴

1泊1万円以下のホテルは使用言語数が多い。一方、価格が高いホテルも使用言語数が多いが、一番高い三井ガーデンホテル銀座プレミアと1万円台前半のホテルは2言語である。欧米からの訪日外国人は宿泊費にかかる金額が高く、反対に中国語圏、特に中国本土からの訪日外国人の宿泊費は低いというデータがある(参考:観光庁訪日外国人消費動向調査2018年7-9月)。よって高価格ホテルは、欧米人宿泊者を意識していると考えられる。

開業年順にみた特徴

開業年と使用言語数に比例関係はないが、ホテルグループ(ホテルユニゾ・相鉄フレッサイン・三井ガーデンホテル)で見ると、新しい店舗は言語数が増加している場合もあり、開業年と使用言語数には関係があると言える。

ホテルの住所(地区)別にみた特徴

銀座1丁目は平均2言語となり、使用言語が少ない。一方で銀座中心地に近いホテルほど言語数が多く、ユニゾや三井はホテル立地に合わせて言語を選んでいることがわかる。ソラリアが高価格で使用言語が多い理由には、ホテルが中心地に近いことが関係していると言える。

6.4.2. ホテル属性から見た特徴

ホテルインターフォンが設置してある場合、その使用言語はホテルのターゲットとする客層、開業年、場所による違いがある。年々増加していく訪日外国人に合わせるかたちで、使用言語数は増加していると言える。さらに、1泊1万円以下のホテルはターゲットを多国籍にしているため、言語数も多く、1万円以上のホテルは、宿泊費にお金をかける欧米人をターゲットにしているため、必ず英語表記があると考えられる。高価格ホテルの中には言語対応が豊富なホテルもあるが、それはホテルの場所が強く関係していると言える。銀座中心地は観光名所が多く、多くの外国人観光客がおり、使用言語数もそれに適応している。反対に1丁目などは中心地から離れ、オフィス街になっていることから、ビジネスマンの宿泊地としてホテルが建っているため、言語数が少ないと考えられる。

6.1. 調査概要

6.5. パンフレットにおける使用言語数について (山中倫子)

6.6. 銀座のホテルの公式サイトにおける、選択可能言語の違い (加藤)